

更年期女性へのホルモン補充療法（HRT）意思決定ガイドの開発と内容適切性評価
Development and evaluation of contents and relevance of a decision aid for hormone
replacement therapy for menopausal women

14mn306
濱田亜矢子

論文要旨

【背景】ホルモン補充療法（Hormone replacement therapy：以下 HRT）は、閉経に伴い出現する様々な問題に対する根本的な標準治療であり、病気の予防、健康増進にも使用されている。しかし、治療の複雑さから正しい理解は進んでいない。また、HRT ガイドは、海外では、すでに開発され、意思決定の質の向上への効果が認められているが、日本にはまだない。

【目的】本研究は、更年期女性が、HRT の治療選択をするために、考え方を支援する意思決定ガイド（以下、ガイド）を開発するとともに、ガイド（試案）の内容適切性を確認し、修正版を完成させることを目的とした。

【研究方法】構造化された開発プロセスにそってガイドを作成し、その洗練を目的として、以下を行った。〔ガイドの適切性評価〕機縁法にて集めた一般女性 10 名に行った。ガイドのステップにそって紙面上にて実施し、適切性について自己作成の評価表を用いて評価を依頼した。それだけでは不十分な内容については個別にてインタビューを行った。〔ガイドの内容評価〕更年期医療の専門家 3 名に依頼し、HRT 選択に必要な医学情報の正確さや、情報の過不足はないかなど、自己作成の評価表とインタビューをもとに確認し、それらの結果からガイドの修正版を作成した。なお、この研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（16-A044）を得て行われた。

【結果】〔ガイドの開発〕海外の開発 eTraining サイトや HRT ガイド、先行文献を参考に作成し、一般女性、臨床医、更年期外来看護師、助産師、薬剤師、意思決定の研究者、更年期の専門家、メノポーズカウンセラー、メディア、企業などからのアドバイスをもとに、6 ステップのプロセスからなる試案を完成させた。〔適切性評価〕受容性の評価から、【情報量】【情報の説明の長さ】

【理解のしやすさ】【役立ち度】について、インタビューからは、この内容に加え【表現の工夫】について具体的に確認を行った。4 項目において、ほぼ全員が良好な回答を示したが、価値観を明確にするステップ 4 について、「形式を変えたほうがよい」「文章の理解がしづらい」などが指摘され、インタビューデータを参考に、全体的な修正を行った。【表現の工夫】では、長い文章は避ける、文字に囲みをし、視覚的な印象を変える、絵を増やす、硬い言葉の表現は避けるなどの指摘を受け、修正しガイドに反映させた。〔内容評価〕では、【情報量】【情報の理解】から、更年期症状を理解するにあたり不足した情報がある、更年期を多少知っているとも情報量が多い、治療選択なのに薬の情報がない。エビデンスの量が多いなどへの指摘があった。インタビューにて、内容を詳しく聞き、修正を行った。

【結論】ガイド（A4 版、全 26 ページ）は、内容適切性の評価から、一般女性 10 名に理解され、役立つものであり、女性の HRT 選択を助けるためのツールとなりうる可能性が示唆された。今後も、最新の情報と女性の理解度に応じ改訂、改良が必要である。